



うねる道路 段差1に

宇城市小川町の商店街では道路に1.5mの高さほどの段差ができ、地震の力の大きさに驚く住民も。道路脇の家は大きく傾き、近くの国登録有形文化財「新藤屋柏原家住宅」は門や塀が道路側に崩れていた＝7月30日午前11時50分ごろ



青い屋根 雨に備え

氷川町島地の集落を上空から見渡すと、雨漏りを防ぐため屋根にブルーシートが張られた被災家屋が見られた。本格的な台風が到来するが、これ以上の被害が拡大しないことを願った。＝8日午後1時5分ごろ(ドローン撮影)

よりどころ 変わらず

八代市の八代城跡に鎮座する八代宮は、1933年に造られた拜殿が倒壊した。被災状況を取材していると、女性が拜殿前で頭を下げていた。地震で風景は変わっても、心のよりどころの場は変わらないように見えた

＝ 7月31日午前10時50分ごろ



熊本で最高気温が40・3度となり、熊本県内で初めて40度以上の酷暑日となった3日。八代市では39・0度を観測し、同市鶴町では暑さで道路が水溜りのように見える「逃げ水現象」が現れた。3日午後1時25分、又



大切なもの どこに



次から次へ 支援の輪

氷川町の被災家屋で災害ボランティアが片付けに汗を流していた。屋根から落ちた瓦や割けた土壁を手際よく土のう袋に入れて次々と運んだ。埼玉から駆け付けたという人もおり、支援の輪が全国に広がっていることを実感した＝9日午前10時55分ごろ



災害ごみ 山積み

宇城市の宇城クリーンセンターに積み上げられた災害ごみ。7月31日から7日まで仮置き場として災害廃棄物を受け入れた。搬入された合計は約685t。8日以降は別の仮置き場に搬入されている
 -10日午前9時20分ごろ（ドローン撮影）

断水 恵みの井戸水
「自由と愛と平和を」* 断水

く永川町の集落の一角に貼り紙があった。早朝、訪れた女性がホースからあふれる水を口に含み、顔を洗った。支え合い、助け合う住民の心が通ちていた。



爆発の恐怖 まどろまどろと



新たな命 元気いっぱい

開墾自給の種々の面後には、バド社の神職人（
明徳で生まれた村岡柳幸ちゃん。母親の由緒さ
ん（32）のおなかに、祖母と看護師が覆いかぶ
さり、母子を守った。「7月28日」の誕生日が
昇るベッドの上で、元気に両腕を上げた
11月1日午後3時40分「ろ



炎天下 たまる疲労

根に張るブルーシートとの配布
り、町民が次々と訪れた。炎天
ち場る人の表情には疲労の色が
でいた。5日午前11時35分、又



懸命な救助活動

多くの家屋が倒壊した永川町。地震翌日、他県から災害支援で駆け付けた警察官も行方不明者の救助活動を続けた。家財道具などを外に運び出し、安否確認を慎重に行っていた
＝7月29日午前10時ごろ



支え合う避難生活

多くの避難者が身を寄せる宇城市小川町の小川防災拠点センター。地震発生から2日後に訪れると、心身ともに疲れ果てて横になったり、助まし合うかのように声をかけ合ったりする人たちの姿が見られた
＝7月30日午後4時10分ごろ

朝刊 2026/08/11(火)

系庁

県民

令和8年(2026年)8月11

2026年熊本地震の発生以降、休業が続いているゆめタウンはません＝10日、熊本市南区



ゆめタウンはません 来月中の再開目指す

熊本県内で大型商業施設「ゆめタウン」や「ゆめマート」などを展開するイズミ(広島市)は10日、2026年熊本地震の発生以降、休業している「ゆめタウンはません」(熊本市)について、9月中の営業再開を目指す方針を明らかにした。

一方、地震の被害が大きい「ゆめタウン八代」(八代市)は再開のめどが立っていない。

地震発生後にはグループの県内全35店舗で一時、施設の安全確認を進めるため

に営業を見合わせた。確認ができた店舗から順次、営業を再開しているが、「ゆめマート田崎」など計10店舗を休業している。

イオンモール熊本(嘉島町)で起きた爆発事故を受けて、「ゆめタウンはません」「ゆめタウン八代」ではガスを管を検査している。

10日に熊本県庁を訪れた山西泰明会長は「店舗は安心安全でなければならぬ。ガス管には漏れがないか細部にわたってチェックしている」と述べた。

他の休業中の店舗では、

敷地内で段差ができたリ、天井や床にひびが入ったりしたため補修しているという。

イオン九州(福岡市)は、マックスバリュ新戸島店と、イオンモール熊本内のイオン熊本店で営業を見合わせている。新戸島店は店舗改装の時期と地震が重なったため、改装と安全確認が終わり次第、再開する。安全確認を進めているイオン八代店、イオン宇城店など県内4店舗では原則、時短営業や店先の店頭販売で対応している。(樋口琢郎)